

『サブプライム問題に端を発したサザンの桑田さんと北野監督と足の裏』の関係



皆さん、サブプライムに端を発した激動の時代が到来してまいりましたが、いかがお過ごしでしょうか？
時流に乗ってやっていくのか、時流から外れたとしても、おのおのの分野で本物を目指してやっていくのか、世の中の分かれ目に来ているような気がします。

そして後から振り返ったときに、あの時がターニングポイントだったなあと必ず感じるであろう時が『今』ではないかと思えます。
そんな大切な『今』ですが、我々テクア技研のメンバーは何をすればよいのでしょうか？10年後に我々が飛躍している為に、今できることは？

実は、私はだいたい『今まで通り』でいいのでは？と思っています。今まで通りのやり方で、じっくりと安全に取り組み、毎月改善を加え、社内と現場を良くしていく。まったく焦る必要はないと思います。

いくらたくさん工事を受注したところで、安全に施工できる範囲を超えていたら、いつか事故と言う手痛いっぺ返しを喰うのがこの業界の自然の法則ですから。。。

結局『人の成長が会社の成長』、まったくこの言葉通りの経営しかできませんので、周りがよく見える落ち着いた人格形成、時にアホになれる勇氣、人の立場に立てる優しさ、ドハマリの現場を乗り切る忍耐力、誰かの役に立つことで得られる喜び、そのようなものが少しずつ育っていけば自ずと結果は出ると思えます。

先日、サザンの桑田さんが『昭和83年度！ひとり紅白歌合戦』と銘打ってエイズ撲滅キャンペーンで昭和の名曲を中心に全61曲を3時間15分かけてひとりで歌いきったとのこと。

ジュディーオングの『魅せられて』なんかは舞台が7メートルもせり上がり、純白のドレスが10メートルも広がる演出、大トリは白組『和田アキ男』に扮して名曲『あの鐘を鳴らすのはあなた』を絶唱されたそうです。

私はこのニュースを聞いたとき、なんか、男桑田佳祐の技術、品質、心意気、人間性の集大成だなあと深く感じ入りました。それは自分の中では映画監督北野武がカンヌのレッドカーペットをちょんまげのかぶりものを被って歩いたのと同等の価値があり、人生の最高の境地だと思うのです。

自分の日々の磨きぬかれた技が人を幸せにし、なおかつ非権威的でくだらない。これほど人間万歳！の境地はないのではないかと思います。

我々もこの人生最高の境地をめざして、一步一步進んでいきたいと思えます。

浜ちゃんの足の裏の画像を見てやってください。巨体を支えながら100キロ歩ききった男の足の裏です。

『何でここまで。。。？ばかばかしい！』と思われる方も人口の数パーセントはいらっしゃると思います。無理のないことです。しかしこの足の裏は自分から見ると本当に尊い。いつかは桑田さんやたけしさんの後姿をとらえることができる可能性がある足の裏だと思います。。。

最後に坂村真民さんの詩を紹介させていただきます。

尊いのは足の裏 坂村 真民

1. 尊いのは
頭でなく
手でなく
足の裏である

一生人に知られず
一生きたくない処(トコロ)と接し
黙々として
その務めを果たしてゆく
足の裏が教えるもの
しんみんよ
足の裏的な仕事をし
足の裏的な人間になれ

2. 頭から
光がでる
まだまだだめ

額(ひたい)から
光がでる
まだまだいかん

足の裏から
光がでる
そのような方こそ
本当に偉い人である



感謝！ 羽原篤史